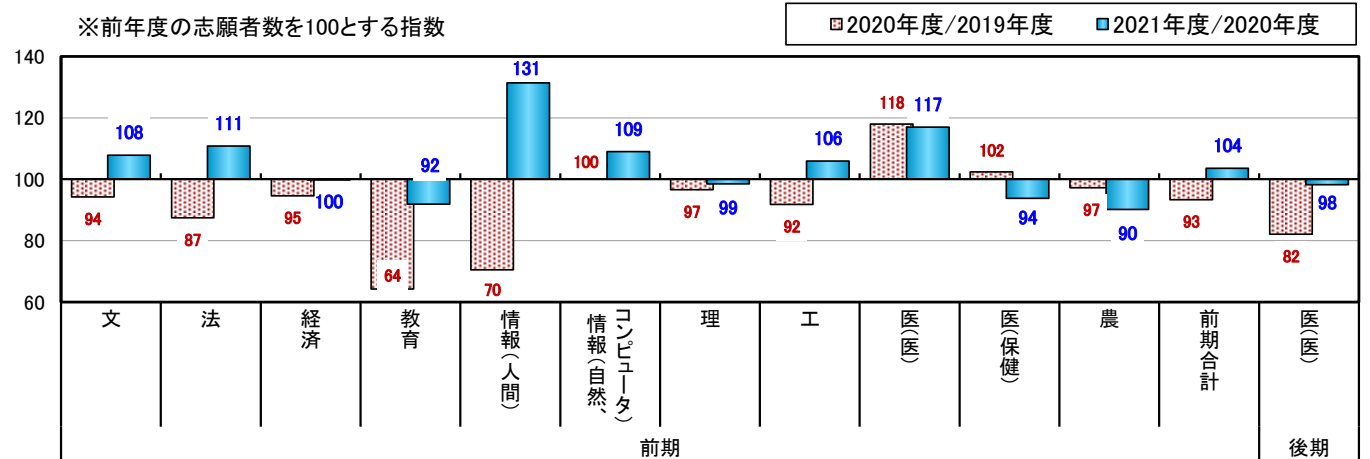


2021 年度入試状況分析【国公立大】

名古屋大：前期は文系、理系ともやや増加

前期：+159人 後期：-1人



入試変更点
 第1段階選抜基準変更：医(医)〈後〉…センター試験が900点満点中720点以上の者→12倍(通過予定人数：60人)
 個別試験：医(医)〈前〉…国+数+理2+外+面 ※国：国語総合、現代文B、古典B
 →国+数+理2+外+書類審査 ※国：国語総合、現代文B(古文・漢文を除く)
 ※面→書類審査はコロナ禍対策によるもの
 (保健)〈前〉…数+理2+外→国+数+理2+外 ※国：国語総合、現代文B(古文・漢文を除く)

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、前期は159人(104)のやや増加。文理別では、文系は61人(105)のやや増加、理系も98人(103)のやや増加。後期は医(医)(愛知県内枠)のみの募集だが、当初2段階選抜を廃止する予定だったが、コロナ禍対策として基準を変更して実施となり、前年度大幅減少の反動はなく、1人(98)減少の前年度並。

<前期日程>

- 文(108)は、2年連続減少の反動で増加。
- 法(111)は、増加で前年度の反動による増減が継続。
- 経済(100)は、微減だが3年連続減少。
- 教育(92)は、減少で2年連続減少。
- 情報(116)は、2年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、(自然情報)(148)は、2年連続減少の反動で大幅増加、(人間・社会情報)(131)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、(コンピュータ科学)(87)は減少で前年度の反動による増減が継続。
- 理(99)は、微減だが3年連続減少。
- 工(106)は、前年度減少の反動は小さくやや増加に留まった。学科別では、前年度唯一増加した学科だった(電気電子情報工)(91)は減少、一方で、他の6学科は増加。特に、(エネルギー理工)(135)、(物理工)(119)、化学生命工(115)の3学科が大幅増加。
- 医(医)(117)は、個別試験の国語の出題範囲を現代文のみにしたことに加えて、コロナ禍対策として面接を書類審査に変更した。これらの負担減により大幅増加、志願倍率も3.3倍→3.8倍にアップ。2012年度入試での4.4倍以来の高倍率。
- 医(保健)(94)は、個別試験で国語が追加された負担増によりやや減少。専攻別では、(保健/理学療法)(109)は増加、(保健/看護)(107)、(保健/放射線技術科学)(104)はやや増加。一方で、(保健/検査技術)(64)は大幅減少、(保健/作業療法)(90)は減少。
- 農(90)は、減少で3年連続減少。学科別では、(応用生命科学)(100)は前年度と同じ志願者数。他の2学科は(資源生物科学)(75)は大幅減少、(生物環境科学)(92)は減少。